

- かながえる子
- おもいやりのある子
- たかましい子

## 協力してがんばったグリーンキャンプ

6月10日(木)、11日(金)の2日間、5年生のグリーンキャンプが行われました。朝から晴天に恵まれ、2日間で予定していた活動は全て行うことができました。初日の朝の出発式で、「2日間の生活で、普段みなさんの周りにある便利なものは1つありません。そんな中で、1番頼りにできるのは「人」です。1番やってはいけないことは、もめ事やケンカです。苦しいことや、上手いかないことがあっても、みんなで協力して乗り越えてきて下さい。」という話をしました。頷きながら真剣に話を聞いている5年生を見て、頼もしく感じました。

鞍掛山登山からスタートして、夜のキャンプファイヤー、2日目の野外炊事など、様々な体験を通して、大きく成長したことと思います。キャンプファイヤーでは、それぞれの班で工夫を凝らした発表があり、とても楽しい時間でした。5年生のクラスのまとまりを感じました。この2日間の経験を生かして、これから5年生がどんな活躍を見せてくれるか楽しみです。



## 4年生総合的な学習の時間

### 大型紙芝居「お山が燃えている」

6月7日(月)に、滝沢市「陸大学・歴史教室」の方々に来ていただき、大型紙芝居「お山が燃えている」を上映していただきました。これは、歴史教室で長年講師を務められた藤沢昭子先生が、生徒さんと協力して作製したもので、ふすまサイズのベニヤ板に着物の生地などを貼り付けて描かれています。物語は、一本木地区に甚大な被害をもたらした1686年の岩手山噴火をもとに、15の場面が表現されていました。4年生は、毎年、復興教育の一環として、「イーハトーブ火山局」を見学して岩手山の噴火の仕組み等を学習しています。今回は、その事前学習という位置づけで行いました。子どもたちは、大迫力の紙芝居に圧倒されながら、自分たちの住んでいる地域の歴史について学ぶことができました。

6/8付け岩手日報で紹介されました。



滝沢 滝沢市柳原の一本木小(石亀健校長、児童133人)の4年生23人は7日、大型の手作り紙芝居を通して江戸時代の岩手山の噴火について学び、地域の歴史を理解を深めた。紙芝居は、同市の鶴那町向け講座「陸大学」で歴史を学ぶ住民ら11人が作製。ふすまサイズのベニヤ板に着物の生地などを貼り付けて柄をあしらった。物語は一本木地区に甚大な被害をもたらした1686(貞享3)年の噴火を基にした。赤や黒の布に綿を詰めて作った球を壁石に見立てて投げると、子どもたちの興味を引きつけた。観覧した角井明雄さんは「火山について学ぶことができた。着物を使って作ったのがすごい」と驚いた。

岩手山噴火を学ぶ紙芝居  
住民手作り、一本木小で披露



～今日が楽しく、明日が待ち遠しくなる学校を目指して～

## 学校公開に向けての取組

一本木小学校では、10月29日（金）に学校公開研究会を予定しています。一本木中学校と協力しながら「小中連携」をテーマにした授業公開を行い、市内の多くの先生方に見ていただく予定です。この学校公開に向けて、各担任の先生が取組や準備を進めているところです。

1学期の5月から6月にかけて、4つの学級が研究授業を行いました。どの学級でも、子どもたちが真剣に考え、友だちの意見を大事にしながら学び合っている姿が見られました。これから更に授業を充実させ、子どもたちに力をつけていきたいと考えています。



2年生 算数の授業



6年生 外国語の授業



5年生 算数の授業



4年生 国語の授業

## プール清掃 がんばりました

5月19日（水）に、6月からの水泳学習に向けてプール清掃を全学年で協力して行いました。朝から天候が心配されましたが、各学年がそれぞれ分担された場所の清掃をがんばり、午前中に何とか全ての作業を終えることができました

ピカピカになったプールで、元気いっぱい水泳学習をするのが楽しみです。



## 校長室日記(言いかえ図鑑)

6月13日（月）

最近、偶然書店でこんな本を見つけました。『言いかえ図鑑（よけいなひと言を好かれるセリフに変える）』というタイトルで、企業内カウンセラーとしての経験を持つ大野萌子さんという方が書いた本です。主にビジネスマンに向けて書いた本ですが、その中に【子育て】というページがありました。一例を紹介します。

- ×よけいなひと言「勉強しなさい」  
⇒◎伸びるひと言「勉強しよう」
- ×よけいなひと言「だから言ったでしょ」  
⇒◎伸びるひと言「次からは気をつけようね」

子どもたちへの指導の中で、無意識のうちに「よけいなひと言」を言ってしまっていたか反省しました。「伸びるひと言」に言いかえて、子どものやる気を引き出したいと思いました。